

一

次の①～⑧の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------|------------------|
| ① 官庁を移転する。 | ② 紅茶かコーヒー。 |
| ③ 地域の住民。 | ④ 満点を取ると宣言する。 |
| ⑤ 目をトじて音楽を聴く。 | ⑥ チームのカイカクに取り組む。 |
| ⑦ コップをワッてしまった。 | ⑧ 宿題をワスれた。 |

二

1～2のそれぞれの問いに答えなさい。

1 次の漢字の総画数を算用数字で答えなさい。

- ① 部 ② 弱 ③ 版 ④ 遺

2 次の言葉の対義語を後の語群の中から探し、漢字で書きなさい。

- ① 往復 ② 禁止 ③ 用心 ④ 公開

語群

ユダン・カイテン・ヒミツ・カタミチ・イジョウ・キヨカ

③ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

「父さん、ナシ、食べない？」

ガラスと戸が開いた。かみの毛がもしやもしやの父さんが、弱々しく笑って、皿を受け取った。

「大地、いろいろすまないね。」

今まで母さんには「父さんは、とてもつらい思いをしているから、^①もうしばらくそっとしておいてあげてね」といわれていた。たしかにわかる。父さんはやさしくて、他人の痛みも自分のことみたいに感じる人だから。今、こんなありえない状態になって、^②ひどく苦しんでいるんだっていうことでも、ヒゲがのびてよれよれのパジャマを着た父さんを見たら、大地はなんだか情けなくなってきた。

だって母さんは家を支えるために働き始めて、ぼくは家の用事をして妹のめんどうを見ている。そして陽子だってさびしいのをがまんしてがんばっている。がんばっていないのは父さんだけじゃないか。^③もともと強いすがたを見せてほしいのに。早く立ち直ってほしいのに。

「父さん、食堂で食べたら。」

「うーん。」

「陽子もさびしがってるし。」

「すまん。」

「謝るなら、晩飯のときに、みんなに謝ってよ。」

「ほんと、そうだよなあ。」

以前の父さんは、おこるとふるえ上がるほどこわかった。ふだん、とてもやさしいだけに、こわさが倍増するのだ。でも今の父さんは、大地が何をいつてもムダみたいだった。

「カッコ悪いよ、父さん。」

自分が思うよりも先に、口が動いてぼんぼん言葉をはき出してしまふ。

「ひきこもりの息子をもつ親っていうのは、テレビでよくやってるけど、ひきこもりの親をもつ小学生の子どもの話なんて、聞いたことないよ。」

「なんていっていいか……すまん。」

父さんは申し訳なさそうにため息をついて答えた。

ちがう。そんな言葉を聞きたいんじゃないんだ。大地はいかりで胸がいっぱいになった。

「こんなところに、こもってたって、なんの解決にもならないじゃないか。」

彼は、ナシをぐいとおしつけて、台所の方にもどった。

まだナシはたくさんあったけれど、もう自分の分をむく気分にはなれなかった。

母さんが帰ってきた。今日はカニクリームコロッケをかかえて。

「おいしい。」

陽子がうれしそうな声をあげながら、食べる。前よりは食事の雰囲気^{ふんいき}が明るくなったけれど、それでも父さんがいないから、元通りにはならない。

大地ははっきりいうことにした。食べ終わった頃^{ころ}を見計らって切りだす。

「ねえ、母さん。父さんは今日も和室でひとり食べてるわけ？ いいかげん食堂に出てきてほしいよ。」

^④母さんは陽気に答える。

「そのうち出てくるでしょ。それより^⑤母さん、今日、新しい仕事をたのまれちゃった。」

「えっ。」

「おそうざい屋さんのななめ向かいにスーパーがあるでしょ。そのチラシづくり。母さんの字って、丸っこくてかわいいんですって。」

「いつやるの、そんなの。」

「夜、うちでできるからいいでしょ。」

「よくないよっ。」

大地は思わずどなった。

「朝から晩まで働いたら、そのうち病気になるじゃないか。」

「母さん、実は体力あるの。」

「本当はつかれてるくせに。そうやって過信してる人が一番あぶないんだよ。」

「過信なんて、むずかしい言葉を知ってるのね。」

「ごまかさないでよ。」

母さんは、こりていないみたいだ。うふふと笑いながら、皿を台所へ運び始めた。

大地は、不満をぶつけた。

「だいたい、^⑥父さんがいつまでもあんなふうだから、いけないんだよ。」

父さんは、いつでも強くて一家を守ってくれる人でいてほしかったのに。がっかりだ。そんな気持ち^{きもち}がまたふきだしてしまふ。こたえない母さんに向かって、大地は続けた。

「母さんが働きまくってるのだって、父さんのせいじゃないか。平気なの？」

母さんは、皿を洗いながら答えた。

「父さんと母さんは、ふたりで一つのチームなの。」

「チーム？」

「そう。母さんが大変なときは父さんが助ける。父さんが大変なときは母さんが助ける。チームってそういうものなのよ。」

きれいに洗ったふきんを干しながら、母さんが続ける。

「今まで、父さんがずーっと母さんを守ってくれてたでしょ？ だから本当のことをいうとね。今は少しうれしいの。」

「うれしい？」

「初めてだもの、こういうこと。今度はわたしがチームメイトを守ってあげるの。休みたいだけ休ませてあげる。ねむりたいだけねむらせてあげる。」

節をつけながら、歌うように母さんはいう。大地はずっとかかえていた疑問を口にした。

「母さんは、父さんのしたこと、どう思ってるの？」

「したこと、って？」

「友だちの相談につきあつたせいで、会社をやめさせられたこと。」

「お父さんは、悪くない。」

「え。」

「お父さんは、悪くない。そう思ってるわよ。」

「でも——。」

「大地もそのうち経験すると思うけど、生きているといろんなことがあるのよ。正しいとかまちがつているとか関係なく、どうにもならないことが起きる。それはさけられないの。」

「うん……。」

「そのとき、手を取り合つて、^⑦チームふたりでがんばるの。結婚^{けっこん}つてそういうものかもしれないわね。大地もいずれわかるわよ。」

くすくすと笑つて、母さんは陽子を呼んだ。

「陽子、国語の教科書を持つてらっしゃい。今、学校で習つてるところ、母さんに読んで聞かせて。」

「いいよつ。」

喜びいさんで部屋にかけていく陽子を見送つて、母さんはいった。

「だから大地は心配しないで、自分にとって大切なことをやって。そういえば引退試合まであと二か月くらいしかないんでしょ？」

「でも、家の用事をしないと。ぼくだけ卓球^{たっきゅう}なんてやって遊んでる場合じゃ——。」

「おそうざい屋さんね、日曜日はお休みなの。だから引退試合、見に行くわよ。」

「え？」

「おいしいおにぎり作るわよ。あとは、からあげもほしいんでしょ？」

「でも——。」

「母さん、ほんと楽しみにしてるのよ。一年前から、どれだけ強くなったかしらね。試合に出ないと卓球はやめるとかいったら、母さん、ショックでねこんじゃう。」

おどすつもりかよつ。大地はあきれてしまったが、母さんが実はとても意思の強い人だというのは、もうよくわかつていた。

いう通りにするしかないか。たしかにクラブから帰って買い物に行つて、残りの時間で家の用事をすれば、じゅうぶんなんとかなりそうだ。

卓球。引退試合。キャプテン……。失つてしまうかもしれないと思つていたものが、再びもどつてきて、大地は^⑧胸がどきどきするのを感じていた。

（吉野万理子『チームふたり』より）

- 4 -

問一——線①「もうしばらくそつとしておいてあげてね」とありますが、そつとしておくとは具体的にどうすることですか。当てはまる部分を本文中から三十字でぬき出し、初めの五字で答えなさい。

問二——線②「ひどく苦しんでいる」とありますが、父さんはどんなことがきっかけで苦しんでいるのですか。本文中から二十九字でぬき出し、初めの五字で答えなさい。

問三——線③「もっと強いすがたを見せてほしいのに。早く立ち直つてほしいのに」とありますが、「ぼく」は、「父さん」にはどういう人でいてほしいと思つていたのですか。本文中から十七字でぬき出して答えなさい。

問四——線④「母さんは陽気に答える」とありますが、なぜ母さんは陽気に答えたのですか。その理由としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が父さんの支えになれることがうれしいから
イ きつと何とかなると楽天的に考えているから
ウ 息子にだけは心配させないよう強がつているから
エ 父さんはいつか立ち直ると思つているから

問五——線⑤「母さん、今日、新しい仕事をたのまれちゃった」とありますが、「新しい仕事」とは、具体的にはどういう仕事ですか。本文中のことばを使つて十五字以内で書きなさい。

問六——線⑥「父さんがいつまでもあんなふうだから」とありますが、「あんなふう」とは、どういう状態を指していますか。「うの状態」に続くように、本文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問七——線⑦「チームふたりでがんばる」とありますが、これはどうすることですか。それが書かれている会話を本文中から抜き出し、初めの五字（「」はふくまない）で答えなさい。

問八——線⑧「胸がどきどきするのを感じていた」とありますが、これは大地のどんな気持ちをあらわしていますか。もつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母さんの言葉で二か月後に迫つた引退試合のことを意識し初め、急に緊張している気持ち
イ 苦しんでいる父さんを見無視して、自分だけ卓球なんてしている場合ではないとあせる気持ち
ウ 母さんが引退試合に来ると知り、全く練習していないのに大丈夫なのかと不安になる気持ち
エ 父さんのことを考え卓球はあきらめていたのに、またできるとわかり、楽しみにする気持ち

- 5 -

④ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(特に指示がない場合、句読点や記号は一字に数えます)

ところで、近代社会が始まった最初のころは、教育が行き届いていなくて、字の読めない人も多かった。じゃあそういう人は、ブルーカラーとして働いていないさ。一部のひとが高等教育を受けなければいい。① こういう時代も長かったのですね。

この時代には、学問とか教養とか、文字を読み書きする知的活動は一部の人のためのものであって、残りの人びとは仲間に入れてもらっていなかった。

現在は、違います。現在は、すべての人びとが、そういった知的活動に開かれている。学問や知は、すべての人びとのためのものになった。さっき「頭の栄養」と言ったのは、そういう意味なのです。

さて、専門の職業のために、文字を読んだり書いたりする人が大勢います。たとえば、簿記の業務とか、司法書士みたいな業務とか、教育の業務とか。

そういう専門の人びとは、それだけやっていればいいか。当面の仕事には、それで差し支えないでしょう。

ところが、世の中は、とても変化が激しいのです。会計ソフトが出てきて、誰もが使えるようになると、簿記の仕事はなくなってしまうかもしれない。そういう具合で、ひと昔前、ふた昔前にあった多くの職業が、消えています。そして、新しい職業がたくさん出てきます。② 人生のリセットを途中でやらなければいけないひとが、多くなる。

人生のリセットは、どうやるか。今までとはまるで違った専門の本を、いちから読んで勉強し、仕事で使えるようにならなきゃいけない。

まるで分野の違う本を、読みこなす基礎になるのが、普通教育とか、一般教育とかいうものです。普通教育は高等学校の、一般教育は大学のいい方ですね。まあ同じものだと考えてよい。将来、職業に役に立つかわからないけれども、歴史や文学や哲学や経済や、ひと通り勉強しておくんです。

勉強する身になってみると、これ、何の役に立つの、って思います。

先生は言います、試験に出るからね。たしかに試験には出るんですけど、試験のために勉強するのではない。将来の、人生のありうべきリセットのため。自分が近代人として、職業に縛られないで自由に生きていくための保証。これが、一般教育とか、教養とかいうものなのです。

そして教養こそは、組織のトップのような、意思決定をする立場になるとよくわかりますが、前例のない出来事が起こったときに、「③」の唯一、参考になるものです。なぜか。前例がないようにみえても、多少似たようなことなら、外国にあったり、過去にあったり、フィクションの中にあつたりするからです。

そして教養は、人びとがよりよく生きることを支援するものなのです。

※補助線として、お金もうけにこだわる人を考えてみましょう。お金は、Aさんがたくさん持っている、Bさんはそれほど持っていない、ということ。お金は、有限な資源なのだから。そこで、

お金にこだわる態度には、根本的に考えて、「④」していくということがある。だけど、文字とか言語とかいうものは、※シエアできる。ある人が知識を持っているからと言って、別な誰かが知識を持っていない、ということにはならない。教養は、他者を排除しない。受け入れることができるのです。

さて、社会はどのようにできているか。親が子どもを育てるとか、分業して仕事をするとか、コミュニケーションと協力関係によって成り立っている。自分と他者の関係をよく理解して、お互いを豊かにしていくという構造があるわけです。

だから、何かにこだわりの持つのなら、こうしたコミュニケーションと協力関係を踏まえたほうがいい。⑤ この社会の仕組みと調和し、両立するようなこだわりの持つ方がいい。そういう人は、人びとどうまく協力関係を築ける可能性が高く、実り豊かな人生を送るチャンスが高まるんです。

本で学ぶのは、まさにそういうこと。お金にこだわるのは、それに比べると、あまりいい方法ではない。生活のクオリティ(質)を高めるには、本で学ぶことが大事なんです。

学校で学ぶ普通教育や一般教育は、すぐ役に立つかわからない。でも、まわり回って役に立ちますから、身につけたほうがよい。

けれども、これが次の段階に進むと、どうなるか。学問や教養を身につけたり、知に触れたりすること自体が、楽しくなってくる。楽しくて、仕方なくなる。知の楽しみに目覚めると、⑥ それ自体が、目的になります。

これ、ある意味では、※倒錯です。お金にもならず、家族にも喜ばれず、世の中のために役に立つかどうかかわからないのに、なんか本を読んでは、ニタニタしている。変ですよ。でも、そんなことを言えば、音楽を聴いてニタニタしていたり、おいしいものを食べてニタニタしていたりするひともある。別にいいわけでしょ。それはそれで、人生の一部です。

(橋爪大三郎『正しい本の読み方』より)

※補助線：ここでは、問題を理解しやすくするための例のこと

シエア：共有すること

倒錯：通常とは逆になること

問一——線①「こういう時代も長かったのですね」とありますが、「こういう時代」とはどういう時代のことですか。もっともふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア すべての人びとに、教育が行き届いていた近代社会のはじめ
イ 一部の人びとをのぞき、学問が広く行き届いていた近代社会のはじめ
ウ すべての人びとが、字を読むことができなかった近代社会のはじめ
エ 一部の人びと以外は、字が読めなかった近代社会のはじめ

問二——線②「人生のリセット」とありますが、これはどうすることを指していますか。「～と」につながるように五十字で答えなさい。

問三「③」に入るのにもっともふさわしいことを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ものごとを決める イ もうけを増やす ウ 責任を逃れる エ 労働者を守る

問四「④」に入るのにふさわしいことを本文中から五字でぬき出しなさい。

問五——線⑤「この社会の仕組み」とありますが、「この社会の仕組み」を説明している部分を、本文中から三十二字でぬき出し、はじめの五字で答えなさい。

問六——線⑥「それ自体が、目的になります」とありますが、その例として、もっともふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 家族を養うために、汗水垂らして深夜遅くまで仕事に励む
イ 世の中の助けとなるために、災害ボランティア活動に参加する
ウ 鉄道研究の奥深さにはまり、日々路線図を暗記している
エ 勉強にも部活にも興味が無くて、ただ毎日ゲームをして過ごす

問七 君たちが社会に出て働くようになるであろう将来に、「ますますさかんになるであろう職業」と今ある職業の中で「なくなってしまうかもしれない職業」を一つずつあげ、理由とともに百字程度で説明しなさい。

氏 名

得点



1



For further information, please contact:

120 100 80 60 40 20